

## お知らせ

愛媛大学医学部附属病院では、医学・医療の発展のために様々な研究を行っています。その中で今回示します以下の研究では、日本医療研究開発機構 (AMED) の「生殖機能温存がん治療法の革新的発展にむけた総合的プラットフォームの形成」において収集したアンケート調査のデータと日本産科婦人科学会の周産期登録データベースを使用します。この研究の内容を詳しく知りたい方は、下記【お問い合わせ先】までご連絡下さい。

### 【研究課題名】

「本邦におけるがんサバイバー女性の周産期転帰に関する調査研究」

【研究機関】 愛媛大学医学部附属病院産科婦人科

【研究責任者】 愛媛大学医学部附属病院産科婦人科 助教 安岡 稔晃

【研究代表者】 愛媛大学医学部附属病院産科婦人科 教授 杉山隆  
(日本がん・生殖医療学会 周産期専門部会長)

### 【研究の目的】

我が国のがんサバイバーの女性の妊娠・出産は、昨今のがん治療成績の向上や、がんの妊孕性温存療法および生殖補助医療技術の発展に伴い増加してきています。しかし、がんに対する薬物療法や放射線治療を施行され、その後に妊娠に至った場合の流産率や早産率、低出生体重児率や妊娠高血圧症候群、妊娠糖尿病などの妊娠合併症の割合、胎盤異常の割合などの周産期転帰やそれらの発生要因に関しては未だ不明です。我が国におけるがんサバイバー女性の周産期転帰を検証し、さらにはがん治療が周産期転帰に及ぼす影響について検討することが本研究の主な目的です。

### 【研究の方法】

がんサバイバーの女性の対象者のデータは、日本医療研究開発機構 (AMED) の「生殖機能温存がん治療法の革新的発展にむけた総合的プラットフォームの形成」において収集したアンケート調査のデータを利用します。対照としては日本産科婦人科学会の周産期登録データベースを用います。そして、がんに対する薬物療法や放射線治療を施行され、その後に妊娠に至った場合の流産率や早産

率、低出生体重児率や妊娠高血圧症候群、妊娠糖尿病などの妊娠合併症の割合、胎盤異常の割合などの周産期転帰を統計解析します。

**【共同研究について】**

この研究は、日本産科婦人科学会と共同で行っています。

**【個人情報の取り扱い】**

研究に利用するデータベースは、すでにお名前や住所などの個人を特定できる情報は除かれています。個人を特定できるような情報が外に漏れることはありません。また、研究結果は学術雑誌や学会等で発表される予定ですが、発表内容に個人を特定できる情報は一切含まれません。

さらに詳しい本研究の内容をお知りになりたい場合は、**【お問い合わせ先】**までご連絡ください。他の患者さんの個人情報の保護、および、知的財産の保護等に支障がない範囲でお答えいたします。

**【試料・情報の管理責任者】**

愛媛大学医学部附属病院産婦人科 安岡稔晃

**【お問い合わせ先】**

連絡先

愛媛大学医学部附属病院産婦人科 安岡稔晃

TEL:089-960-5379

FAX:089-960-5381

Email: tyasuoka@m.ehime-u.ac.jp